

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月28日

【評価実施概要】

事業所番号	290500032		
法人名	社会福祉法人 柏友会		
事業所名	グループホームふくうら		
所在地 (電話番号)	〒037-0022 青森県五所川原市梅田字福浦349番地2 (電話) 0173-33-6056		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成20年4月16日	評価確定日	平成20年5月28日

【情報提供票より】(平成 20年 3月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 19年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	16人, 非常勤 2人, 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	6,000 ~ 冬期9,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 550 円			

(4) 利用者の概要(3月 25日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77.3 歳	最低	65 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川崎胃腸科内科医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道沿いに大きく設置された看板を元に小路を入ると、施設というよりは大きめの住宅のような建物が見えてくる。前面には庭園があり、玄関にもプランターに花が飾られ、ごく一般的な民家という感じである。車椅子の利用者が多いが、職員も入居者も一緒になり掃除をしたり食事の準備をしたりしてアットホームな感じである。地域との関わりを積極的に持とうとする姿勢が感じられるが、どのように行っていけばいいのか、その方法を見いだせずにいるようである。入居者家族等からの苦情や意見を取り入れる為に玄関脇の職員の目が届かない所に用紙と箱が設置されていた。さらに、切手の貼った封筒が用意され、苦情や意見を出してくれる方が、用紙を持ち帰りゆっくりと書いて頂きたいという気遣いが感じられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	初回評価につき該当なし。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は事前の職員会議の場で外部評価の意義を説明し、職員の理解が得られた上で全職員で自己評価を作成している。評価結果を全員で回覧し改善点に対する取り組みが行われようとしている。外部評価の結果については、運営推進会議や職員が意義を利用しケアの質の向上に努めたいとしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は定期的開催され、市の職員をはじめ、地区の代表、入居者及び家族、法人の代表が出席の下で、グループホームの理解、サービスに対する理解を深めて頂けるよう説明を繰り返し行うと共に、出席者からの意見を頂き、改善点の確認を行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11) 入居者の急変時等には直ちに家族へ連絡し、状況の説明と今後の事について相談されている。比較的安定され、家族の面会も頻回ではない方もおり、毎月、ホーム独自の便りや預かり金の収支報告と使途の明細、生活状況の一覧を添付し、家族の元へ送っている。家族からは、「相談事や細かな連絡があり、安心感が得られ非常に満足している」との意見が出されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域における清掃活動に積極的に参加され地域住民との馴染みの関係構築に努めると共に、地域の方々の訪問や、外出の際のふれあいを大切にしている。認知症やグループホームの理解の啓発を積極的に行っていきたいとの意見が聞かれ、今後の取り組みが期待される。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は大きく掲げられているが、ホーム独自の理念ではなく、母体施設と同じ理念である。		全職員で話し合いながらホーム独自の理念を作り上げ、意識統一を図り、理念に向かい日々の業務を進めていくことが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	共用空間の見やすいところに掲示されている。毎日、職員で復唱が行われている。名札の裏にも理念が記載され、常に確認できる工夫が見られる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域住民の訪問も多く、行事参加も行われている。今年度においては、地域住民参加の行事を開催する計画もできており、広報活動の取り組みが見られている。地域住民の受け入れ体勢はできているが、地域に対してホームの啓発、広報活動が少ない。		グループホームの理解、認知症の理解を地域に広めていくためにも、広報誌を検討し配布するなどホームから積極的に情報を発信していくことが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価には職員全員が関わり作成されている。職員は自己評価をしながら、今後の関わり方を考えて日々の業務にあたっている。</p> <p>評価結果においても全職員に配布し、今後の業務に活かしていく取り組みが見られる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>入居者、家族、地域の代表、市の担当者、法人の代表が参加される運営推進会議が行われており、意見交換が積極的に行われている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>月に1回の地域ケア会議に参加され、市の担当者と交流を深めて、気軽に相談できる関係が作られている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度の利用が必要な入居者はいないが、マニュアルが整備され、いつでも確認できる環境にある。外部の研修や母体施設の研修に参加されており、職員の理解が深められる取り組みが見られる。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>マニュアルが整備され、いつでも確認できる環境にある。外部の研修や母体施設の研修に参加されており、職員の理解が深められる取り組みが見られる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>退所要件の期間は決められているが、本人や家族の状況により期間を延長するなど、臨機応変に対応している。</p> <p>退所後においても相談を受けて、他の施設を紹介するなどの対応を行っている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>金銭管理においては、月に1回、ホームの広報誌と共に、明細書、領収書を家族に送っている。また、家族の面会時には確認印をもらっている。</p> <p>証書や高額な通帳等は、母体施設の金庫で管理し、預り証を作成している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情箱を玄関に設置すると共に、切手の貼った封筒を準備して、自由に意見が書ける様に配慮されている。</p> <p>苦情窓口においても重要事項説明書に明確に記載され、十分な説明も行われている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>今まで職員の異動もなく、管理者は職員の異動による弊害を理解されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の全ての研修に参加した際には、レポートを作成して回覧し、全職員に伝わるように取り組んでいる。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、研修にも積極的に参加され交流を深めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定者には事前にホームの見学をお願いし、馴染みの関係を作った上で入居して頂くようにしている。見学が出来ない場合には、管理者と計画作成担当者が訪問し、馴染みの関係が出来るように努め、安心して利用出来るように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常の業務において、言葉遣いや個々の好きな話題に注意して接し、寄り添うことにより、思いを共感し理解するように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントに認知症の人のためのセンター方式を取り入れ、これまでの生活の把握に努め、個々に合わせた対応を検討されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプラン作成には全職員が関わり、十分な検討がなされている。個々に合わせた生活の役割、活動も記載されており、アセスメントが十分反映されている。作成された介護計画は回覧され、全職員が共有できるように取り組んでいる。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回は見直しが行われている他、状況によって随時見直しが行われている。又、状況が変化した場合、家族に十分な説明と意向の確認が行われている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療機関の受診は殆んどがホームの職員で対応している。その他にも、要望により美容院に行ったり、買い物に出かけたり柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでに主治医変更はなく、本人、家族が希望する医療機関を継続している。又、受診には家族の希望により、ホームで対応し定期的に医療が受けられるように取り組んでいる。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人内に特別養護老人ホームがあり、重度化した場合にはそちらへ入所してきたため、重度化した場合のグループホームでの対応の取り決めはまだ検討されていない。		今後の重度化に伴ない、家族の希望に合わせてホームとしてどこまで対応できるのか検討し、ガイドラインを作成していくことが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等は入居者の目の届かない所に保管され、居室の入り口には苗字のみ(表札)付けられている。職員の採用時には、個人情報の取り扱いについて誓約書を取っている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間を合わせたり、他の入居者とは別の場所で食事の介助を受けたい方に対しては、別室で食事を摂れる環境を作っている。徘徊者には付き添って歩いたり入居者のペースに配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付けには入居者・職員が共に行っており、会話をしながら、穏やかな雰囲気が窺える。外出した際には、個々の希望により外食をされることもある。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日、利用可能な体制であり、週2回入浴する方や週4回入浴する方、入浴と足浴を交互に行う方がおられるなど個々の希望に即した対応が行われている。夜間の入浴も可能であることを説明し声掛けされているが、希望される方がいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は、食事の準備・後片付けや掃除など役割を持って積極的に過ごしている様子が窺える。個々の嗜好に合わせて、園芸、おしゃべり、ちりめんのクラブ活動が行われ、気分転換を兼ねて、月に1回は外出行事が行われている。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望により買い物、理美容など柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会が活動されており、法人全体で取り組んでいる。検討内容は職員に伝えられ、意識統一が図られている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵を掛せず、徘徊者には職員が十分観察して対応している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員の連絡網が介護員室の見やすいところに掲示されている。シュミレーションが行われ、機器の取り扱いなどが職員に周知されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の管理栄養士がメニューを作成している。毎日、全入居者の摂取量が記載されており、変化に応じて会議で検討がなされている。体重測定も月に1回行われている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルが整備され、定例の会議において流行前に注意事項の確認を行うなどの勉強会が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはさりげなく植物が置かれ、過剰な飾りつけもなく落ち着いた雰囲気である。換気も適度に行われており、空気も良い。廊下には長椅子が設置され、思い思いに過ごせる空間が確保されている。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮			
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には持ち込み品が多くみられ、個々のこれまでの生活に合わせた居室が作られている。		

 は、重点項目。